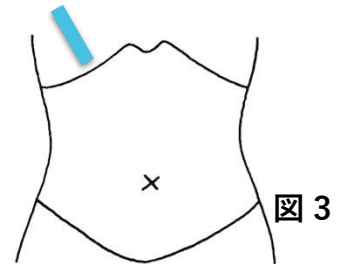
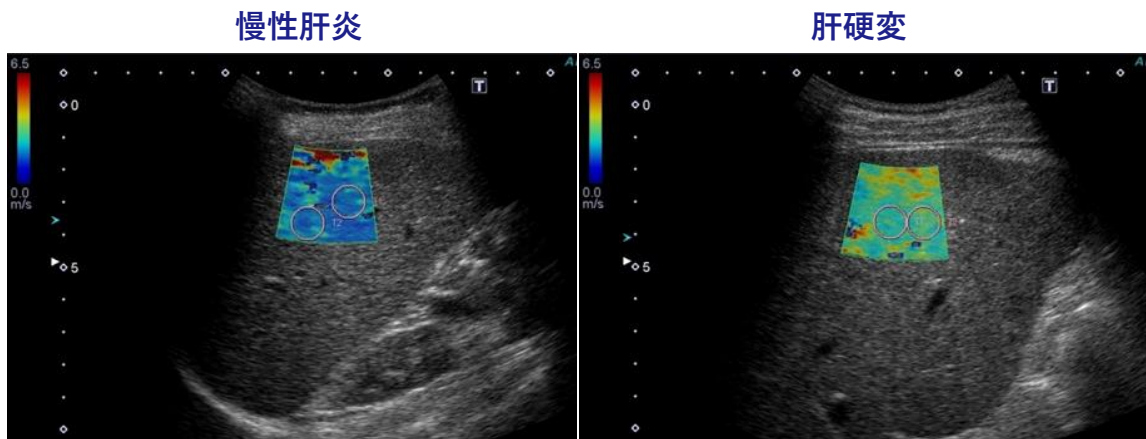


肝硬度測定の方法

- ① 右肋間にプローブ（探触子）を当てます。
- ② 技師の合図で息止めをします。これを数回繰り返します。
(息が漏れると正しく計測できません)
- ③ 複数回データを取り、その中央値を臨床側へ報告しています。
* 通常の腹部超音波検査と同じようにゼリーを塗って検査します。
* 検査時に痛みはありません。
* 複数回データをとるため少し検査時間がかかります。



肝硬度測定 of 超音波画像



上記の超音波画像の通り、慢性肝炎から肝硬変に移行し肝臓が硬くなると剪断速度は速くなります（慢性肝炎より肝硬変の画像は黄色味がかかった色で表示されます）。

肝硬度測定では食事摂取による影響を受けるので、食後は約6時間あけて検査をすることを推奨しています。また、肝臓の炎症、胆汁うっ滞、うっ血等の影響を受けることが知られており、急性肝炎や閉塞性黄疸、心不全などの場合には測定値が高く出ることがあります。その他、検査を受ける方の皮下脂肪の厚さや呼吸調節、検査者の技術も検査データに影響することがあります。

検査データは技師よりお伝えすることが出来ません。主治医の先生より詳細にお聞きください。

《著者紹介》 寶子山 由佳利（ほうしやま ゆかり）
東海大学医学部付属病院
診療技術部 臨床検査技術科
臨床検査技師 超音波検査士

